

小特集

六角氏式目と永源寺文書の研究 (二)

小特集「六角氏式目と永源寺文書の研究」(二)について

東島 誠

目次

小特集「六角氏式目と永源寺文書の研究」(二)について(東島 誠)

【史料紹介】

羽成祥子 地域社会における兄妹扶持の様相

—— 永和三年二月二十九日 円印寄進状の分析を通して

岡村隆洋 戦国期湖東地域における「升」承認過程

—— 弘治元年十一月九日 永源寺某・含空院某連署提書土代の紹介

【史料翻刻】

佐野啓生 「寛文・延宝西ヶ峯相論」関係史料の紹介(上)

【史料目録】

永源寺文書中世文書目録(二)

凡例

目録①の訂正と補足

目録⑤ 函二二二二

目録⑥ 函二二三二

二〇二四年度に本誌六九〇号に掲載した、小特集「六角氏式目と永源寺文書の研究」(一)の続編である。小特集(一)の巻頭挨拶では、臨濟宗永源寺派教学部員で、本学アトリサーチセンター客員協力研究員でもある森慈尋氏に、「永源寺文書ならびに永源寺の文化財——現状と展望」を寄稿いただいたが、その末尾に、「特に貴重な中世資料や書画、墨蹟の一部については、二〇二四年度以降にARC文化資源ポータルデータベース上に順次公開をする予定」とあるとおり、目下、この小特集での成果を踏まえた、デジタル画像の公開準備が、並行して進められている。特に中世文書については、すでに二〇二五年一月末の厳寒のなか、同寺内において公開用の高精細写真の撮影を終えている。が、当然のことながら、デジタル画像公開に至るまでには、年次比定、人名比定、文書名の訂正はもちろん、すべてにおいて、既存の目録や史料集の、徹底的な見直し、再検討が必須となる。本誌六九〇号の小特集(一)は、幸いにして、六角氏や永源寺に関心を寄せる研究者の方々からの反響も大きく、この成果を踏まえた、新たな研究プロジェクトの実施に向けて準備を始めているところであるが、その一方で、小特集(一)に掲載した目録①～④のなかにも、すでに訂正すべき箇所が出てきている。永源寺文書の中世文書目録は、今回掲載の目録⑤函二二二二、⑥函二二三二と、次回、小特集(三)での目録⑦函二二三三、⑧函二二九

二の掲載をもって、一応の完結となるが、小特集(一)所載の目録訂正については、三六―三七頁で必要最小限の情報提供を行うにとどめ、最終的には目録完結後、デジタル画像の公開に合わせて実施する予定である。

以上の事情にともない、「六角氏式目と永源寺文書の研究」と銘打つこの小特集も、二回目の本号は、事実上、「永源寺文書の研究」に特化することとなった。「六角氏式目の研究」にかかわる研究成果については、次回、小特集(三)にて発表することとしたい。

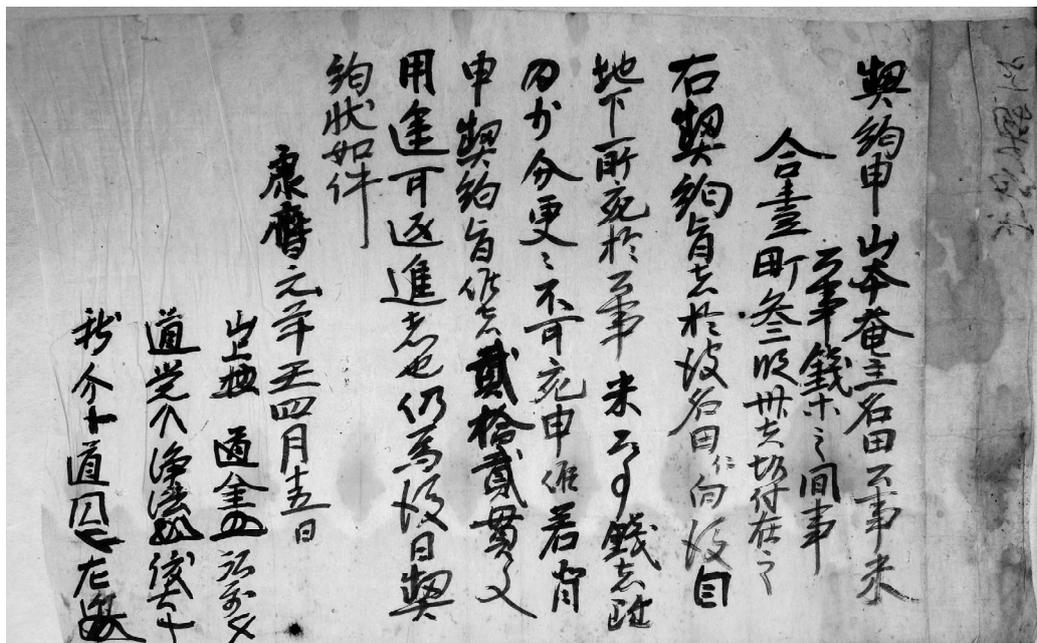
本号にはまず、史料紹介として羽成論文・岡村論文を掲載した。中世近江の女性財産については、六角氏式目四八条の「粧田」の問題をはじめとする重要テーマであるが、羽成論文は、中世社会における女性の権利と保護にかんして、従来あまり注目されてこなかった、きょうだい (siblings) 関係に着目。函二二二に収載された一文書から、兄として妹の扶持を果たそうとする意志を読み取る。岡村論文は、長櫃中世文書・四六号に見える、山上郷における「升」承認過程を再検討することで、中近世移行期村落の重要問題に肉薄。同文書は小特集(一)に掲載した目録①では「写」としていたが、ここに明らかなどおり「土代」であり、宛所名も違っていた。さらに読み下しにおいても、既存の読みを一新するものとなっている。なお「山上郷」については、同論文の取り上げる戦国期以前、南北朝時代に「山上惣」の所見がある(長櫃中世文書・一〇号、下段写真)。両者の関連については、今後の課題となろう。

次に、佐野論文の史料翻刻は、小特集(一)の研究ノート続稿である。中世前期を主たる研究領域とする者が、近世文書に挑んだ異色の研究成果であり、前稿もあわせて参照されたい。

末尾ながら、今回も臨濟宗永源寺派大本山永源寺、とりわけ同寺の

森慈尋氏、また栗東歴史民俗博物館には、大変お世話になった。ここに記して、深甚の謝意を表する。

(本学文学部・大学院文学研究科教授)



康暦元年 (1379) 閏4月15日 山上惣 道金等連署契約状